

第2講 『顔面痛・顔面麻痺』

：顔面痛と顔面麻痺の病因病機には重なる部分が多いため、同時に学習する。

【別称】

顔面痛：面痛・(面)頬痛・両頰痛

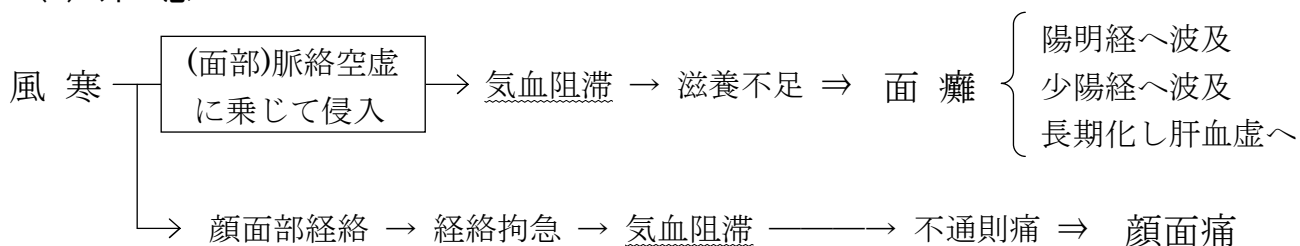
顔面麻痺：面癱・口眼歪斜

【分類】

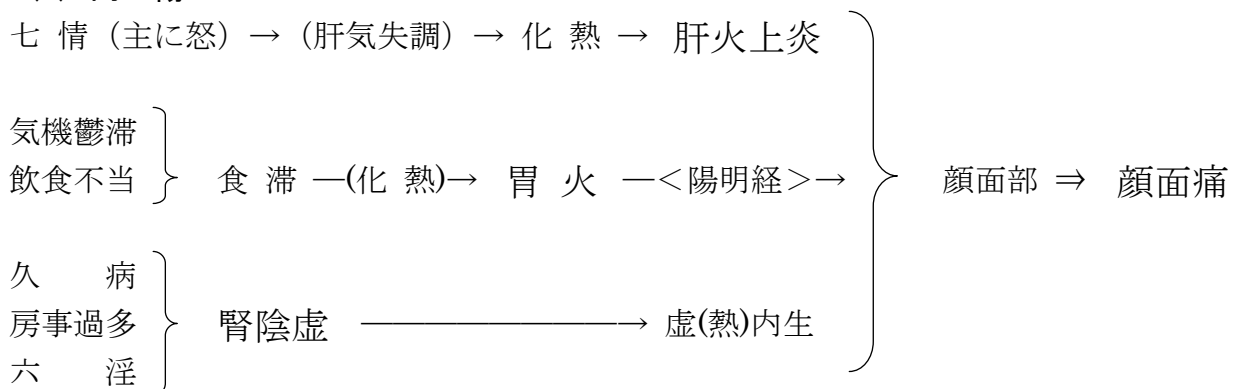
顔面痛 { 実証：風寒・肝火・胃火
虚証：陰虚
顔面麻痺 — 風寒(少陽・陽明・肝血虚)

【病因病機】

(1) 外感



(2) 内傷



* 面癱は顔面部肌肉が滋養を失い収縮できなくなるにより生じる。

* 面痛は顔面部経絡の気血阻滞や内熱による刺激によって生じる。

第1節 『 顔面痛 』

【 弁証の要点 】

(1) 痛みの程度

{ 顕著：風寒、肝火、胃火
比較的軽い：陰虚

(2) 痛みの性質

{ 脹痛・刺痛：風寒（気血阻滞）
灼痛：肝火、胃火

【 症状と処方例 】

《 主選穴 》

	経絡	意義	取穴部位
合谷(双)	大腸経	祛風通絡止痛	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨よりに取る
風池(双)	胆経	(経験穴)	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部

1. 風寒

[症状] 発病が急である、痛みが顕著で冷感を伴う。悪寒発熱、鼻汁等の外感表症を伴うこともある。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
阿是穴	***	疏通経絡	* * * * * * * * * *
風池	胆経	祛風	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部
風門	膀胱経	疏風散寒	第2・第3胸椎棘突起間、外1寸5分
列缺	肺経	解表宣肺	太淵穴の上1寸5分、動脈拍動部のやや機側を取る
合谷	大腸経	祛風解表を強める	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨よりに取る

2. 肝火

[症状] 突発性、灼痛、肝火上炎症（頭痛、耳鳴り、顔面紅潮、脇部灼痛、口苦、舌紅、苔黄、脈弦数等）を伴う。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
阿是穴	***	疏通経絡	* * * * * * * * * *
行間	肝経	疏肝理気 清肝火熱	足背、第1中足指節関節の前、外側陥凹部
陽陵泉	胆経		腓骨頭前下際、陥凹部
蠡溝	肝経		内科の上5寸、脛骨内側面上の陥凹部

3. 胃火

[症状] 突発性、灼痛、胃熱症（消穀善飢、口渇、呑酸、嘔吐、歯肉の腫れ、口臭等）を伴う。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
阿是穴	***	疏通経絡	* * * * * * * * * *
足三里	胃経	清胃熱	外膝眼穴の下3寸
中脘	任脈		前正中線上、臍の上4寸
内庭	胃経		足背、第2中足指節関節の前、外側陥凹部

4. 陰虚（腎陰虚）

[症状] 慢性、痛みは激しくない、疲れると発作が起こる・または増強。腎陰虚症（耳鳴、腰膝痛、潮熱、盗汗、五心煩熱、舌質紅少津、脈細数等）を伴う。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
阿是穴	***	疏通経絡	* * * * * * * * * *
太谿	腎経	補益腎陰	内果とアキレス腱の間陥凹部
腎兪	膀胱経	清虚熱	第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
三陰交	脾経	健脾生津	内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際

《 近位取穴例 》

前頭部・額角部	攢竹・陽白・頭維・率谷
上顎痛	四白・顴髎・上関・迎香
下顎痛	承漿・頰車・下関・翳風

第2節 『 顔面麻痺 』

【 症状と処方例 】

[症 状] 突然発症する、多くは睡眠起床後発見する。顔面一側が麻痺状態になる

(口眼歪斜)。脈浮緊・浮緩。

陽明経型：麻痺側の舌前 2/3 の味覚減少または消失を伴うものがある

少陽経型：耳後・耳下の痛み、聴覚過敏を伴うものがある

肝血虚型：患側筋の拘縮・痙攣、他 肝血虚症状を伴う

[処方例] 基本的に麻痺部位に取穴する

： 地倉・頰車・下関・四白・承漿・陽白 等

《 遠位取穴 》

経 絡	経穴名	意 義	取 穴 部 位
陽明経型	合 谷	疏通陽明	第1・2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨よりに取る
少陽経型	風 池	疏通少陽	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部

[肝血虚型]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
太 衝	肝 経	補肝養血	足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部
膈 兪	膀胱経	補 血	第7・8胸椎棘突起間の外1寸5分
章 門	肝 経	補肝・補中	第11肋骨前端下際